

前期高齢者がんばる

—口永良部島の自然を
大切にすゝる活動やゝてます—

子々孫々の口永良部島を夢見るえらぶ年寄り組
(略称:えらぶ年寄り組)

年寄り組の紹介

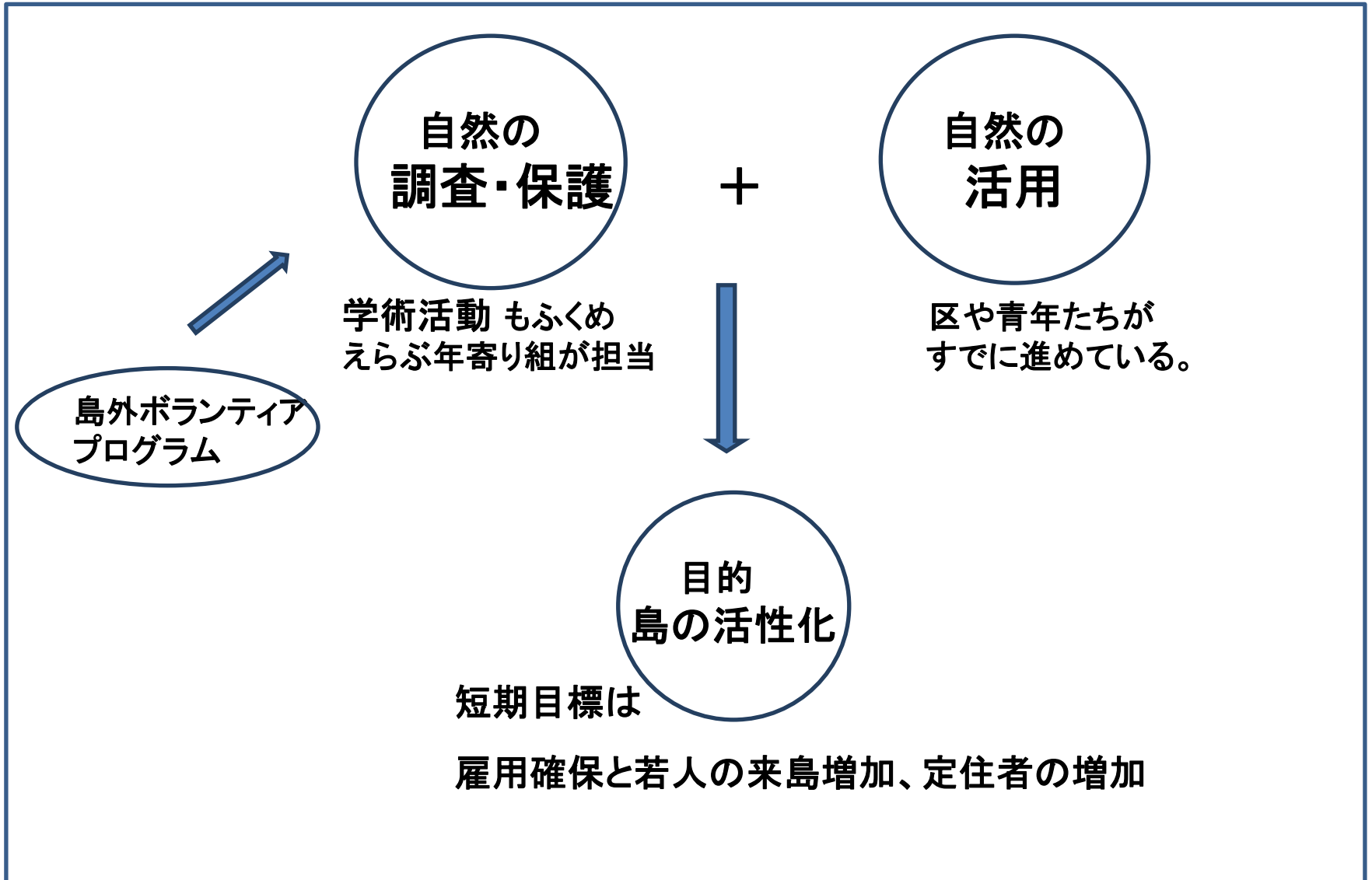
2012年8月に旗揚げ

私たちは、
この口永良部島の、生き物や環境、文化や歴史遺産を守り、それらの子々孫々に伝えたいと願い、また、暮らしに忙しい若い人手伝えたいと云う想いを持つ

年寄ボランティアグループです。

当初、考えていたこと

年寄り組 EP計画 2013年3月



えらぶ年寄り組は

自然を守る「担い手」となり

 島の若い人が自然を活用

「えらぶ年寄り組」の人手不足は、
島外ボランティアに頼る。

年寄り組の活動

こんな活動をしてきました

2012年～

(1) 自然保護の活動

ウミガメ

エラブオオコウモリ

植生保護

タカツルラン

シカ対策

松枯れ調査

トレッキングコースの整備

(2) えらぶ情報の発信

ホームページの管理・運営

「月刊くちのえらぶの自然」の発行

見学会・学習会・講演会

自然保護

エラブオオコウモリ

ウミガメ

植生保護

タカツルラン

シカ食害防止

エラブオオコウモリ

頭数計測

ペリット観測

コウモリ・見どころMap作成

学習会・見学会の開催



向江浜のウミガメ

2012.8	向江浜復元の要請
2013.5~7	屋久島町・ウミガメ監視業務
2014.5~	屋久島町・ウミガメ監視業務

ウミガメ 2013年のシーズンには

(1)アカウミガメ

上陸足跡	64回
産卵(移植)	24頭(卵 2874個)
子ガメ足跡から	19頭の産卵

(2)アオウミガメ

上陸足跡	4回
産卵(移植)	1頭(卵 102個)

浚渫海砂の投棄場所が向江浜になったので、移植する必要があった。

アオウミガメ

美浦漁港の沖合

2014～ アオウミガメ生育調査(始めます)

島の北側の入り江(美浦漁港)には、アオウミガメが棲みついています。
確かにそうなのか、水中カメラで個体認識をして確認します。



美浦漁港のアオウミガメ。4, 5頭が目撃されています。



片手のないアオウミガメ。このカメは確実に長年にわたって棲み
ついています。
子供たちは屋久島のカメにならって「ジェーン」と呼んでいます。

植生の保護

(1) タカツルラン

辻田先生(佐賀大学)と屋久島まるごと保全協会
えらぶ年寄り組との共同研究(2013年～)

活動内容(お手伝いですが)

ランの生育状態のモニタリング
種採取や播種サンプルのチェック

(2) シカ食害

投光器を使ったシカ頭数調査

(3) 枯れ松調査

トレッキングコースの整備

前田ー野池コースの整備

寝待ー野池コースの整備

ゆくゆく「年寄り組」は

私たちの保護活動を、
数日間ボランティアで手伝ってもらいながら、
自然を学んでもらう。

「体験型自然学習キャンプ」を計画中

情報発信(学習会など)

	(1)年寄り組の主催
2013.5	ウミガメ講演会 鹿大ウミガメ研究会 小林氏
2013.6	タカツルラン講演会 東北大学 辻田氏
2013.10	エコツーリズム・口永良部島での展開 東京環境工科専門学校 校長 幸丸氏
2013.11	タカツルラン見学会
2014.3	ウミガメ講演会 屋久島うみがめ館 大牟田氏
	(2)金岳小・中学校(授業・見学会の協働)
2013.6	ウミガメ・コウモリ学習
2013.12	ウミガメ産卵地カンバン作成
2013.12	ESD教育プログラムへの協力 データ提供(世界遺産学習全国サミットinなら)
2014	昔遊び

情報発信(印刷物・発表)

2013.5	(1)「月刊くちのえらぶの自然」 創刊 ＜展示中＞
2014.3	(2)ウミガメ 投稿 日本ウミガメ会議 ニュースレター,98,pp2-6(2014)
2014.4	九州ウミガメ会議での報告
2014.6	(3)タカツルラン 学会報告 (共同研究は2013年から)

情報発信(ネット)

ホームページの管理・運営

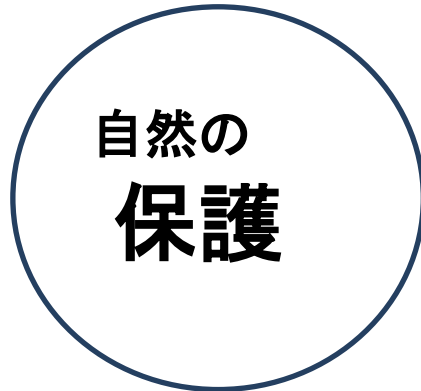
2012年 口永良部島ポータルサイト
<http://kuchi-erabu.org/>

2014年 英語版も
<http://kuchi-erabu.org/eng/>

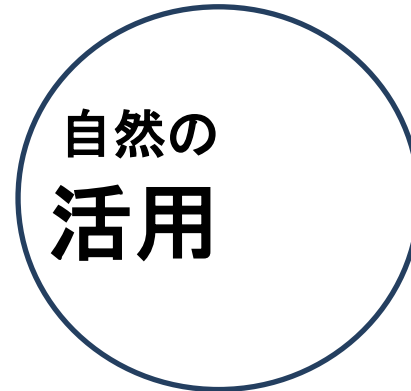
2012年 年寄り組ホームページ
<http://kuchi-erabu.org/senior/>

年寄り組の活動 今後は

口永良部島は、今のままでも エコパーク



えらぶ年寄り組



区や青年たち

+



目標は
雇用確保、若人の来島増、定住者の増



Goal 子々孫々、住み続けられる島

島に來ると
元氣になる人たちがいる

どんな人たちが 何に出会うのか？

休息したい人たち

困っている人たち

登校できなくなった子供たち



島には

生きる力を持った人たち

痛みの分かる人たち

元気な子どもたち

受け入れてくれる

「人」と「自然」と

ゆっくりとした「時のながれ」

島は

多様性のある場としての存在価値あり！

今後の展望はあるのか？

島には、

◆異なる価値観での暮らしがある



安らぎの場、ふり返る場、
学びの場、発見の場
今ひとつの**選択肢としての価値**

◆移住・一時滞在

さまざまな障害からの一時避難所
自然を学ぶ場
都会の生徒・児童の受け入れ



島に**活路あり**



私たち「えらぶ年寄り組」は、

こんな口永良部島を、
子々孫々に引き継ぐために活動しています。

2010/11/27